

## はじめに

藤沢市の自然は、藤沢の地に人間が住み始めた時から、少しずつ変化しつづけています。失われた自然もあれば、人の営みによって作り出されたり、変化した自然もあります。かつての姿を感じさせてくれる自然もありますし、人々の努力により維持されている自然もあります。そして、藤沢市がさらに発展した現在、自然も大きく変化しています。市民の皆様の中には、子供の頃に親しんできた身のまわりの自然がすっかり変わってしまったと感じておられる方も多いことでしょう。

現在の藤沢市には、どんな自然が残されているのでしょうか。

今回の「自然環境実態調査」は、まずそれを知ることから始まりました。市民を含む多くの調査者の地道な努力によって、今を生きる藤沢の自然・生きものの実態が調査されました。また、調査結果から、生きものとの立場で緑地の評価が行われました。その結果、生きものとの現状から藤沢の自然の危機も浮かび上がってきました。

この概要版は、今回の「自然環境実態調査」の結果を市民の皆様にご報告するものです。市民の皆様には、身のまわりで生きている生きものとの名前を知って、愛着を持っていただきたいと藤沢市は願っています。そして、生きものとの生活を理解していただけたなら、藤沢の自然は人々と共に生きていくことができることでしょう。

## 目次

### はじめに

1 調査実施の背景と目的	1
2 現地調査の概要	2
3 藤沢市の自然環境	7
4 確認された生物種 ~現地調査の結果~	9
5 陸域環境の評価	18
6 前回調査結果との比較にみる自然の変化	25
7 ビオトープネットワーク ~生きものとの生息場所のつながり~	26
8 河川と海のつながり ~通し回遊する生きものとの調査からみたつながりの健全性~	27
9 藤沢を代表する緑地	28
10 藤沢の海	30
11 拡大する「生物多様性への4つの影響」	34
12 市の鳥「カワセミ」 ~水辺の鳥調査2012~	36

### おわりに

## 1 調査実施の背景と目的

藤沢市では、「環境基本計画」に基づき平成10年度~13年度にかけて、市内を代表する33箇所の緑地等を対象とした、「藤沢市自然環境実態調査」を行いました。

その成果は、ビオトープネットワークの形成や緑地保全、及び緑化の推進など、各種みどり施策の展開に活用されてきました。

その後、藤沢市をとりまく自然環境は大きく変化し、社会の要求も多様化してきたため再調査が必要となりました。

このような状況を踏まえ、平成23年度~25年度に、2回目の「藤沢市自然環境実態調査」を、市民や市民団体、大学、県内関係機関と藤沢市との協働により、以下の目的のもとに実施しました。



写真は前回調査の概要版

緑地等に生息・生育する動植物の種を記録することによって自然環境の実態を明らかにし、前回調査からの経年変化を把握して、生物多様性と緑地の保全やビオトープネットワークの広域的形成等についての基礎的資料を得ること。

客観的評価によって、各調査箇所の状態を明らかにするとともに、保全の必要性を明確にし、対策の方向性を示すこと。

市民など多くの主体との協働による継続的な調査体制の構築に結びつけること。